香港とは何か

著　野島剛

190781121安藤桃花

はじめに

筆者は学生時代に香港を訪れ、香港に惹かれた
何度も香港に足を運び研究した
本書では筆者の香港の知識を積み上げ、
「日本人知ってほしい香港」をまとめていく

1，境界の都市

- 「Hong Kong」と呼ばれる理由

　英語表記の「Hong Kong」は香港標準語の広東語ではない

　香港の水上民族である蜑民の発音が元になっている

- 香港の歴史

a.アヘン戦争南京条約
海岸線が天然の良港であるとされ1842年、
英国にビジネス街、商業地区がある香港島を割譲

b.アロー号事件北京条約、新界租借条約
1860年北京条約により九龍が割譲され
1898年新界租借条約により英国は99年の期限付きで
新界を清から租借した

c.香港返還

新界租借条約の期限である1997年に香港返還が行われた。条約の内容では返還するのは新界のみでよかったが日中に香港島や九龍で働き、新界の自宅に帰るのが典型的な暮らし方であり、新界のみの返還は現実的でなかった

- 香港の生命力

香港の魅力、価値、生命力は「境界性」
英国の一部であったが完璧な英国ではなかった
中国であり、完璧な中国ではない
中華世界でも、西洋の文化や制度も生きている

境界であるが故に香港は多義的である
多義性を香港人は排除しない

- 国家安全法で失われるもの
  香港には「例外性」がある

大戦後、英国が他の植民地を手放す中香港は例外であった

返還後、中国でも「高度な自治」として独立した政治

WHO、IMFでも国家扱いで加盟し、オリンピックも香港として参加

習近平体制は香港の特殊性に冷淡である
中国化が進められたことが雨傘運動や抗議デモの一因となっている
国家安全維持法は香港の価値を損なう

2. 雨傘運動とその後の2人の若者

- 2014年からの雨傘運動は香港の若者を中心として新しい本土主義が勃興した。

代表的な2人の若者の若者の雨傘運動とその後についてを詳しく見ていきたい

・周庭（アグネス・チョウ）

・梁天琦（エドワード・レオン）

周庭（アグネス・チョウ）

日本で一番有名な香港人「民主の女神」

元々おとなしい性格でクラスでも孤立

同世代の学生運動に刺激を受ける

2014年の雨傘運動の時も毎日占拠現場に泊まり込みデモに参加

2017年返還20周年記念の習近平香港訪問を前に返還記念の公園モニュメントを占拠し逮捕、31時間拘束された

2018年立法会に出馬もDQの可能性が生まれる

DQとは香港の反対派に対して香港政府などが法律を駆使して彼らの政治参加の資格を剥奪していくことを指す

「香港独立を支持しない」という確認書を提出するも資格取り消しの決定が下る

香港は住民投票がないためすぐに状況を変えることができない

2019年の抗議デモで逮捕、起訴されるが彼女は演説もしていない一参加者であったため不当だと思われる

梁天琦（エドワード・レオン）

香港の独立派の象徴である人物

雨傘運動で活躍した若者の中でも最もインパクトの強いカリスマ

2019年の抗議デモは刑務所に服役していたため参加していない

彼の雨傘運動のスローガン

「香港を取り戻せ、革命の時代だ」

香港人の精神の一部になっている

雨傘運動の翌年2015九龍、旺角での「旺角騒動」で有名になる

歩道の煉瓦を投げたり、ゴミ箱に火をつけたり、2019年では日常になっていたが2015年当時は批判が多かった。暴動罪等で2017年に逮捕される

旺角騒動の翌年2016年立法会へ出馬し15%得票

普通選挙なら当選できる力を示した

同年9月の選挙でも出馬したがDQになる

このDQは強引で恣意的な法運用も目立ち、

香港最後の砦であった司法の独立の危機を印象づけた

多くの関係者がDQの行き過ぎを批判している

合法活動を見限った若者が実力行使型の運動へ傾く一因となった

2015年旺角騒動ので2017年に逮捕され、長期刑に実刑判決が下され、本人も香港にいたいという思いから現在も服役中である

- 香港は中国ではない

理想の現実に向けた方法論や生き方に違いはあっても香港本来の未来や中国に対する考え方については2人の若者にそれほど大きな違いはない

3.　2019年になにが起きたのか

- デモの発端

台湾で香港人カップルの別れ話のもつれによる殺人事件が起きた。加害者は香港で被害者のクレジットカードを使った罪で逮捕される。

発生地主義のため台湾警察は殺人事件で容疑者を裁くために身柄を台湾に移送する必要があったが香港と台湾の間に容疑者引き渡しの取り決めがなかった。

これは中国、マカオも同様であり2019年逃亡犯条例改正の抗議デモへとつながっていく

逃亡犯条例改正で香港のこの抜け穴を塞ぐ目的があった

しかし中国との司法制度を隔てる為の故意的な防火壁でもあるとされていた。

返還後よく議論されていた問題だが香港が提示したボトムラインにより問題は凍結していた

しかし香港はカップル殺人事件について台湾検察が香港に司法協力を要請するも無視を貫き、逃亡犯条例改正に踏み切った。

この条例改正を主導したのは香港か中国かは分からないがこの決断はあまりに迅速で身勝手である

- 中国の腐敗対策

逃亡犯条例改正は中国の腐敗対策であると思われる

中国の人民元を外貨に換え、海外に持ち出す流れがあり、人民元の下落圧力にさらされていた

香港に口座や住居を持っている中国人も多いためその抑制につなげる目的

習近平の反腐敗闘争を恐れた政府高官たちが香港に逃げる流れもあったため、それも防止するためでもと思われる

- 抗議デモ

逃亡犯条例改正の抗議デモは大規模に行われた

この抗議デモは若者たちの言葉の影響力が強かった

新語を創り、人々の共通言語、共通記憶として2019年の印象へとつなげている

デモでは若者たちが命がけで運動をしている

デモの参加者たちは香港から自由がなくなってしまうのなら、香港を一度壊してしまってでも香港を守る覚悟でデモに参加している

4.　中国にとっての香港

- 孫文

香港は革命の父である孫文に大きな影響を与えた

英国が荒れた島（香港）を70，80年で進歩させたのに比べ中国には4000年の文明の歴史があるにも関わらず香港のような場所は一つもない

英国統治下の香港と祖国中国とのギャップが清朝打倒（革命）の必要性を強く認識させた

孫文の知識や財源、人脈は香港の存在が大きくかかわっている

- 蒋介石

孫文の後継者である蒋介石は孫文が成しえなかった中国全土統一を成し遂げる

蒋介石は香港を英国から取り戻すことに固執していた

しかし英国は頑なに拒否を続け香港は取り戻すことができなかった

孫文が唱えた不平等条約の解消は蒋介石も生涯をかけて取り組んだ

- 毛沢東

毛沢東の香港政策は蒋介石と違いすぐには香港を解放せず長期的に利用するものだった

香港の従来の地位を利用し対外関係、貿易関係を発展させるねらいであった

英国政府に対しては香港を反共活動の活動拠点にしない限り香港返還は先送りで構わないとの意向を示した

その見返りとして英国は早い段階で中華人民共和国への国家承認を行った

毛沢東は蒋介石よりとても現実的であった

5.　香港と香港人の未来

- 香港のこれから

「一国二制度」は中国と香港の分断を前提にしたもので分断の現状を「50年不変」との約束で中国が追認する制度であった。しかし返還から２０年以上が経過した今全面統治権の強化によって中国は香港の「内なる境界線」を消していく方針を定め、香港は強く抵抗している

新型コロナによりこの議論は一時休戦といった形になったが香港社会と香港政府・中国政府との間に生じた深い溝を埋めることはできない

最後に

国家安全法の導入は香港の良さを多く失う恐れがある

しかし、今まで香港は想像を超える形で中国にノーを突きつけてきた。香港の底力を信じ、香港が中国に飲み込まれないことを願いたい

日本ができることは関心を持ち、意見を表明することである